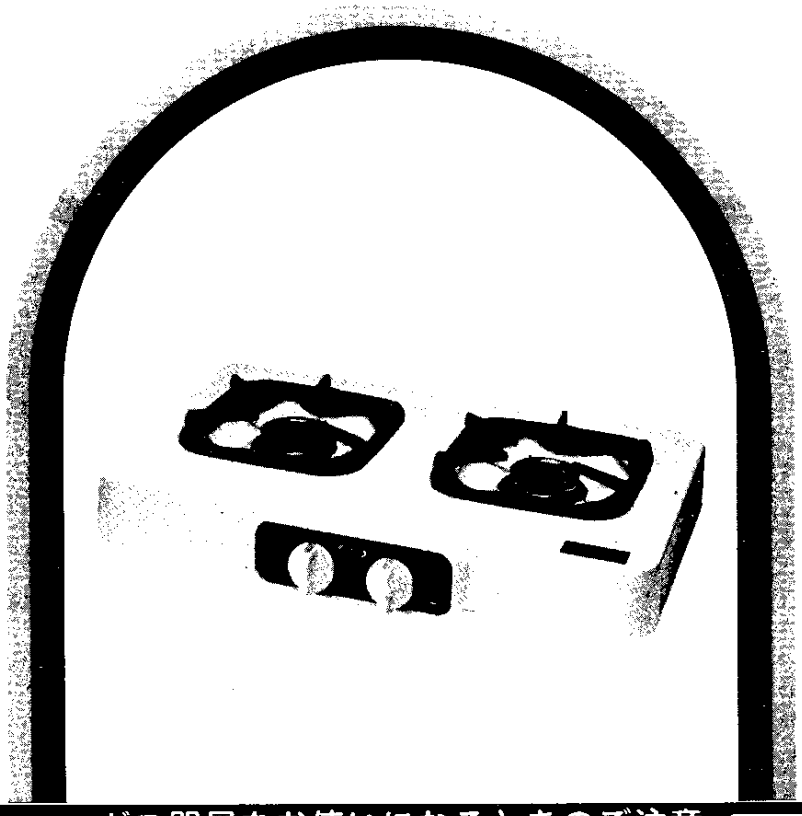
大阪ガス

ガステーブルコンロ
取扱説明書

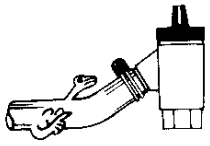
10-263型

保証書付

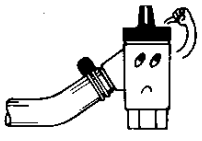
型式名10-263



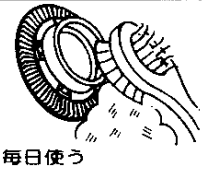
ガス器具をお使いになるときのご注意



ガスゴム管も
ときどき点検
よいゴム管を
ガッチリと



ガス器具を
お使いになった
あとは必ず
もとコックも
閉める習慣を



毎日使う
ガスコンロの
バーナーなど器具も
ときどきお手入れを

ガス器具は
ガスの種類にあった
正しいものを

●ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ごあいさつ

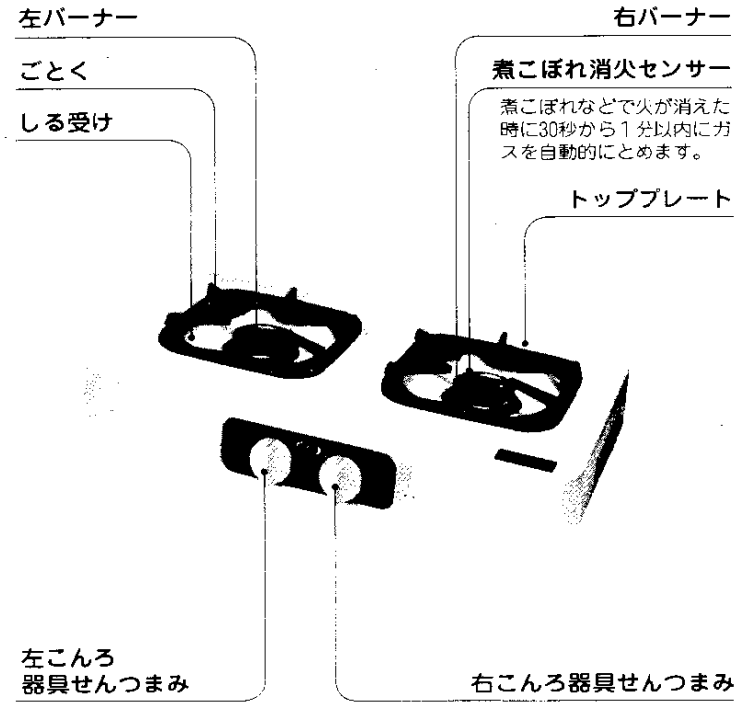
このたびは、大阪ガスのガスデーブルコンロをお求めいただき、ありがとうございました。

別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保管してください。

もくじ

- 各部の名称 …… 2
- 特に注意していただきたいこと …… 3
- 器具の設置 …… 9
- 使用手順 …… 12
- 使用時のご注意 …… 14
- 日常の点検・手入れ …… 15
- 故障異常の見分け方と処置方法 …… 17
- アフターサービスのお申し込み …… 18
- 特　　長 …… 19
- 寸法図と仕様一覧表 …… 20
- 別売部品のご紹介 …… 21

各部の名称

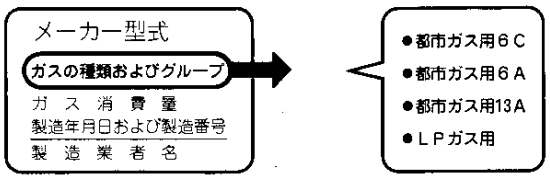


特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

●**ガスの種類を確かめてください。**
ガス器具本体の右側面にはってある銘板(ラベル)に表示のガスの種類と、お宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。

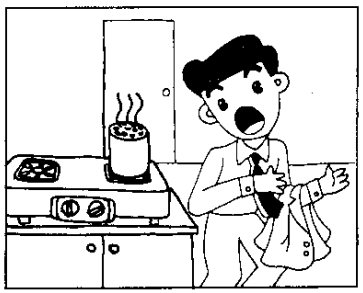


●ガスの種類には、都市ガスとＬＰガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。

●転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

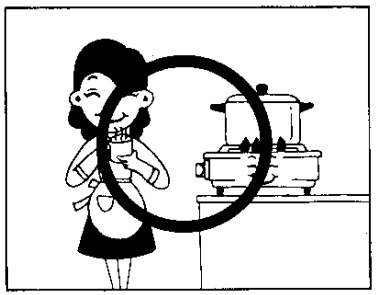
用途についてのご注意

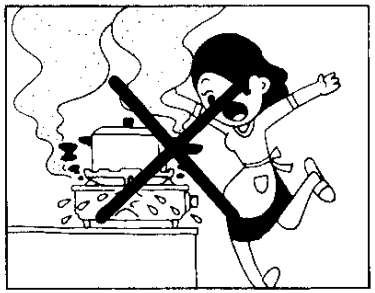
●**調理以外の用途（炭・煉炭おこし・衣類の乾燥など）には使用しないでください。**
過熱・異常燃焼などによる焼損、火災などの危険があります。



市販の補助用具使用についてのご注意

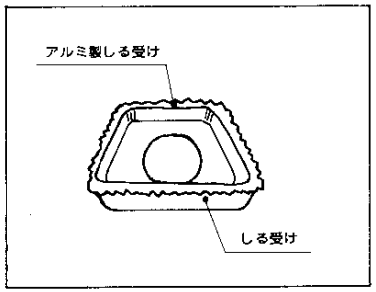
●**極端に大きな鉄板やなべ、熱を逃がさないようにするためのなべ枠、または不良の補助用具などで炎をふさいで使うことはさけてください。**
不完全燃焼をおこしたり、器具を異常に過熱し危険です。

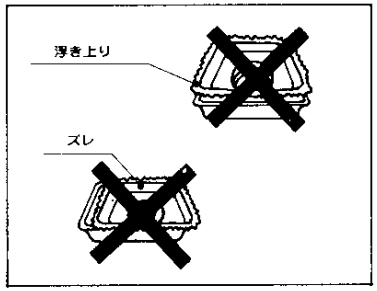




●**しる受けの上に市販のアルミはく製のしる受けを敷いてお使いになる場合は、しる受けに十分なじむようにしてお使いください。**

バーナーに近づいて炎に当たったり、バーナーとのスキマをふさぐと不完全燃焼の原因になります。

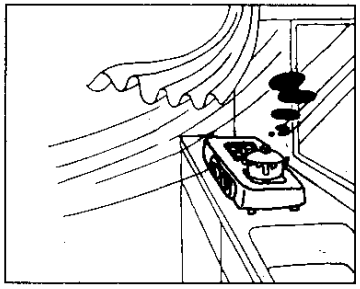




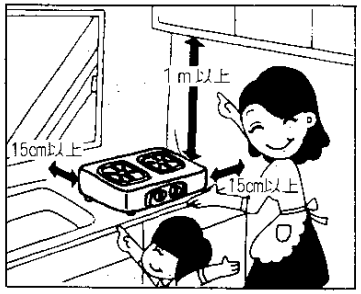
使用場所についてのご注意

●**強い風の吹き込む所では使用しないでください。**
炎が風で吹き消えることがあります。

●**棚の下など、落下物の危険のあるところでは使用しないでください。**



●**テーブルコンロの周囲が木材のような可燃性の壁面の場合は、過熱を防ぐため左右及び後面ともに15cm以上、上方は１ｍ以上離してお使いください。**

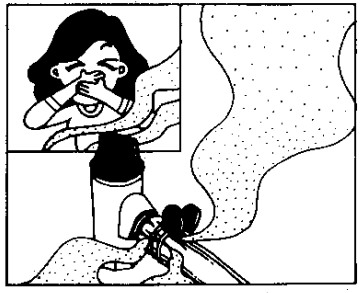


使用上のご注意

ガス漏れ予防

●**ゴム管はガス用ゴム管を使用し、ビニール管は絶対に使用しないでください。**
ビニール管は弾力性がなく、熱にも強くありません。

●**ゴム管は良質のものを用い、時々とりかえてください。（ゴム管の寿命は約3年です。）**
ゴム管が古くなりますと、元せんや器具のホースエンドから抜けやすくなったり、ヒビ割れしてガス漏れの原因になり危険です。

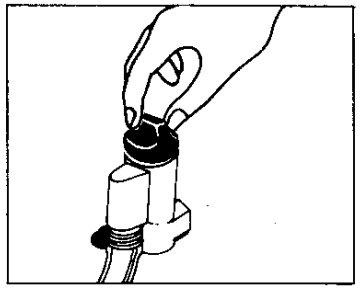


●**器具をご使用にならないときや外出前、またおやすみ前には万一の事故がないように、必ず元せんをしめてください。**

●**使用中は決して外出しないでください。**
空だきになるなど不測の事態が生じることがあります。

●**使用後は必ず器具せんを閉じ、消火したことを確かめてください。**

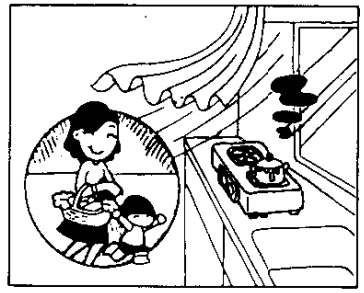
●**使用中には時どき正常に燃焼していることを確かめてください。**



火災予防

●**器具の上やそばに燃えやすいもの（紙、カーテン、家具、揮発油など）を絶対においたり近づけたりしないようにしてください。**

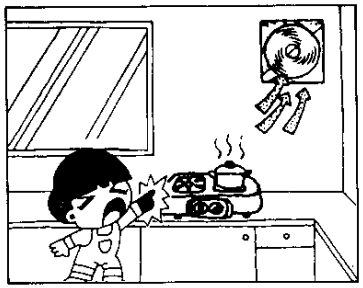
●**火をつけたまま就寝、外出は絶対にしないでください。**



特に注意していただきたいこと ⑤　使用上のご注意

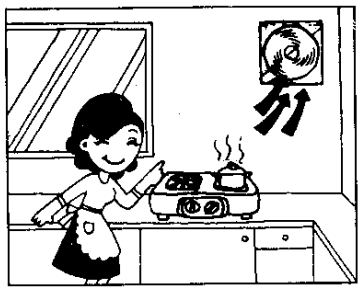
やけどのご注意

●ご使用中および使用直後は、器具本体とその周辺は熱くなりますので、手を触れたりしないでください。特に小さなお子様がいるご家庭はご注意ください。



換気のご注意

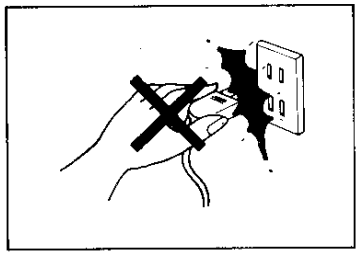
●ご使用と同時に換気扇を回すなど換気にご注意ください。
ガスが正しく燃えるためには、ガスの6倍～10倍もの空気が必要です。しめきった部屋で長時間使用すると空気中の酸素が減少し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の危険があります。



特に注意していただきたいこと ⑥　使用上のご注意

ガス事故防止

●ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉じ、窓や戸を全部あけて、大阪ガス支社または大阪ガスサービスステーションに連絡してください。



〈ご注意〉
万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり換気扇その他電気器具にふれたりしないでください。(スイッチの入・切や電源プラグの抜き差し等) 火や火花で引火し爆発事故を起こすことがあります。

異常時の処置

●ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときはそのままお使いにならず、直ちにご使用を中止（器具せん、ガス元せん閉止）して十分な点検をお願いします。
〔故障・異常の見分け方と処置方法については17ページをお読みください〕

日常の点検・手入れ

●器具を安全、快適にお使いいただくために、日常の点検、手入れは必ず行なってください。(詳しくは15ページをお読みください)

●故障又は破損したと思われるものは使用しないでください。不完全な修理は危険です。

●万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご連絡ください。

器具の設置

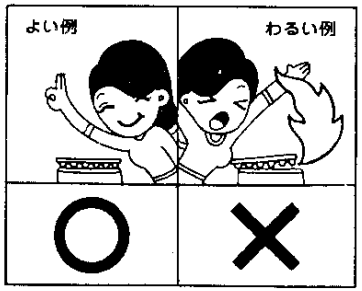
設置前の準備と確認

●各部分のあて紙や包装部品を取り除き、「各部の名称」のように正しく組立ててください。

●器具銘板の表示ガス(ガスグループ)とご使用になるガスとが一致しているかご確認ください。

部品の取り付け

●**バーナートップは傾いたり、バーナー本体より浮き上がらないよう、2～3回バーナートップをまわして確実にセットしているかどうかを確認してください。**



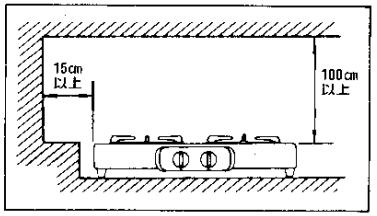
設置上のご注意

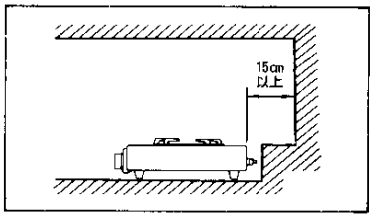
●丈夫で水平なガス台に設置してください。

●耐久性などの点からできるだけ湿気の少ないところを選んでください。

●**周囲に可燃物(木製の壁、たなど)のある場合**

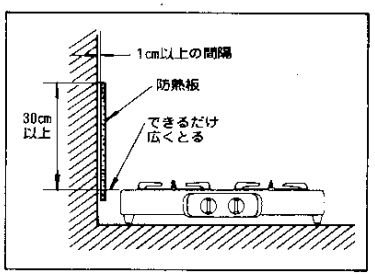
・トッププレートより上の側面及び背面は木製のような可燃性の壁から15cm以上離してください。可燃性の壁にステンレス板などを張ってある場合も同様です。また上部は器体上面から100cm以上離して使用してください。(但し不燃性の場合は80cm以上)――(火災予防条例で定められております)

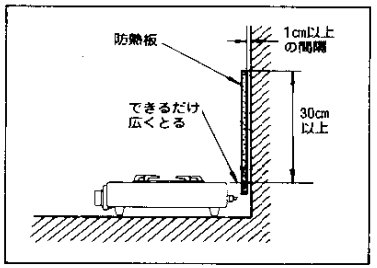




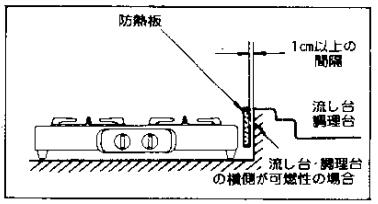
●**可燃性の壁(ステンレス板等を張りつけた可燃性の壁も含む)から15cm以上離して設置できない場合**

・図のように必ず別売の防熱板(コードNo.15-100-0084～6)を取り付けて使用してください。



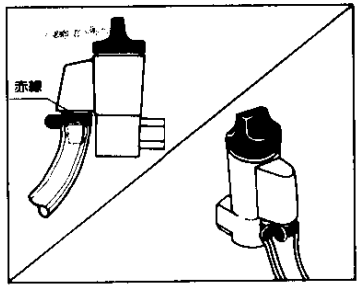


●**可燃性の壁面の高さが30cm以下の場合は図のように取り付けてください。**



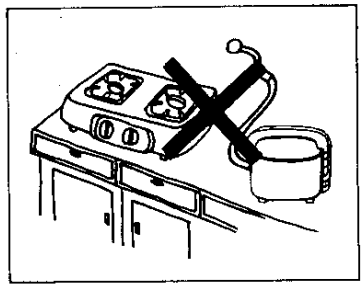
器具の設置 ③

ゴム管の接続



●ゴム管は赤線まで差し込んでしっかりととめてください。

- 9.5mmφのゴム管を使用し、お部屋の元せん、器具のホースエンドともゴム管口の赤線まで十分差し込んで、ゴム管止めでしっかり止めてください。ゴム管止めでしっかり止めていないと、知らずにはずれかかってガスもれが生じることがあり危険です。



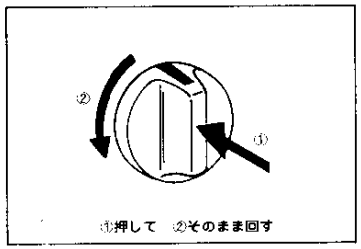
- ゴム管はガス用ゴム管を用い、折れたりねじれたりしないよう、できるだけ短かくし、また器具の下を通したり、器具に触れないようにしてご使用ください。
- ゴム管の継ぎたしおよび二又分岐はしないでください。

使 用 手 順

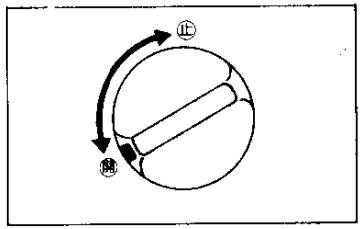
点火前の準備と確認

- 器具の近くに紙、プラスチック、油類など燃えやすいものが置いていないことを確認してください。
- 器具せんつまみが「止」の位置にあることを確認したのち、ガス元せんを全開にしてください。

点　火



①押して　②そのまま回す



- 器具せんつまみを押しながら〝止〟の位置より左へ〝開〟の位置までまわすと「カチッ」と音がして点火します。
- バーナーに点火したことを確認してから数秒間そのまま〝開〟の位置で押しつづけてください。(途中で手をゆるめると点火しないことがあります。)
- 器具せんつまみから手を離したときに、火が消えた場合は押し時間又は押す力の不足です。もう一度同じ操作をくり返し、手を離すとき一旦強く押してください。

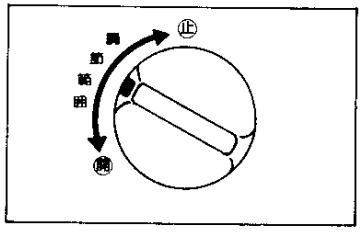
〈ご注意〉

- 万一点火しないときは、器具せんつまみを一旦もとに戻して、あらためて点火の操作をしてください。
- しばらく使わないで点火するときはゴム管内に空気が入って点火しにくいことがあります。この場合は、空気が抜けるまで数回点火操作を繰り返してください。

空気調節

・空気調節の必要のない構造になっております。点火したらそのままお使いください。

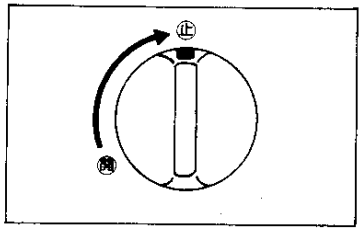
火力調節



●器具せんつまみを〝止〟と〝開〟の間でゆっくりまわして適当な炎に加減してください。

〈ご注意〉
・急に火力調節すると消火することがありますので、弱火にするときはゆっくり調節してください。

消　火



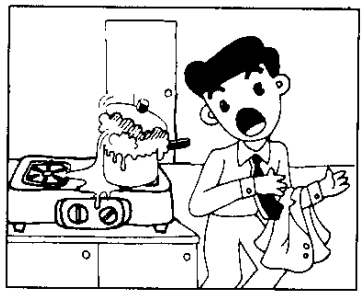
●器具せんつまみを押さないで右へいっぱい〝止〟の位置まで完全にまわして消火してください。

〈ご注意〉
・必ず火が完全に消えたか確認してください。
・消火後すぐにご使用になる場合は、数秒程まってから点火してください。
・長時間使用されないとき(就寝時,外出時など)は,器具せんつまみを止めてください。

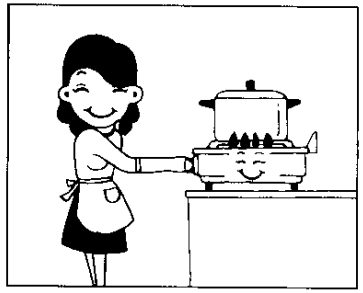
安全装置が作動したときの処置方法

●処置について
・使用中バーナーが消火したときは、すぐに器具せんつまみ・お部屋のガス元せんを〝止〟の位置に戻し、17ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」および、次の方法により処置してください。
・バーナーの炎が消えたときには、安全装置が働いて自動的にガスが止まりますが、完全に止まるまで少し時間がかかります(約1分)。バーナーの消火に気づいたときは、すぐ器具せんつまみを〝止〟の位置に戻してください。
・再点火されるときは周囲に生ガスがなくなるまで少し(約1分)待ってから「使用方法」に従って点火してください。
・弱火でご使用中にナベをとった場合、煮こぼれ消火センサーが作動して火が消えるおそれがあります。

使用時のご注意



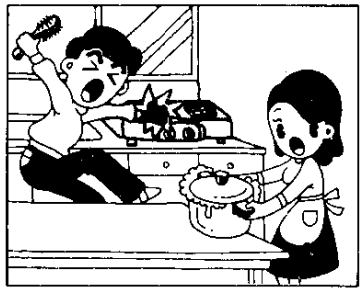
●**煮こぼれは器具を早くいためますのでご注意ください。煮こぼれした時は、必ず完全にふきとってください。**
煮こぼれで炎口がつまると炎が逆流して、器具の内部で燃えるおそれがあり危険です。



●**点火の際は、こんろになべやヤカンをかけて点火し、全部の炎口に点火したことを確かめてください。**

日常の点検･手入れ

点検・手入れの際のご注意



●点検・手入れについては、下記の日常の点検以外は大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に依頼してください。

●点検で異常を見つけられたときは、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に修理を依頼してください。

●点検・手入れの前には必ずガス元せんを閉じ、器具が冷えてから行なってください。

点　検

●安全にお使いいただくためにときどき点検してください。

- ゴム管はガス用ゴム管を使用し、器具およびガス元せんともホースエンドの赤線まで十分差し込み、ゴム管止めで止めてありますか。
- ゴム管が器具に触れたり、折れたり、ねじれたりしていませんか。
- ゴム管が古くなってひび割れしたり、差し込み口がゆるんでいるためガスがもれていないか、ときどき石けん水などで点検してください。
- 器具の近くに紙、プラスチック、油類など燃えやすいものをおいてはいませんか。
- バーナートップ、ごとく、しる受けなどが正しくセットされていますか。
- バーナートップの炎孔が煮こぼれなどで詰っていませんか。
- 煮こぼれ消火センサーの先端が煮こぼれなどで汚れていませんか。

お 手 入 れ

そのつど

●ごとく・しる受け・器体

- そのつどお手入れしていただくのがいちばんです。煮こぼれなどの汚れは湿った布でふきとってください。なおとれにくいときは、液状の洗剤を布にふくませて汚れを落とし、お手入れ後はよくしぼった布で洗剤を十分ふきとってください。

そのつど

〈ご注意〉

- お手入れのとき、器体内部機構に水がかからないようにご注意ください。
- 器体は全面ほうろう製ですから物を落としたり、かたい物をぶつけたりするとほうろうが欠けることがありますのでご注意ください。

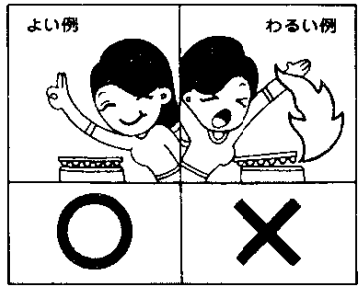
●バーナー（こんろ用）

- バーナートップをとりはずしブラシやキリ状のものでそうじしてください。
  目づまりなどで悪くなったバーナーは、取り替えていつもきれいな状態で使用してください。
  バーナーを目づまりさせたまま使用しますと、不完全燃焼をおこすことがあります。

ときどき

〈ご注意〉

- バーナートップの水洗いはできるだけさけ、水洗いされた場合は必ず乾いた布で十分水気をとり、正しくとりつけてください。
- バーナー本体の水洗いはやめてください。
- 煮こぼれ消火センサーを固いブラシなどでみがかないでください。故障の原因になります。また煮こぼれなどはすぐふき取るように習慣づけてください。性能が十分発揮できないだけでなく、寿命も縮めます。



- 点火操作の火花の出る部分はさわらないでください。取付位置が狂いますと点火しなくなります。また火花の出る先端に手をふれたまま器具せんつまみを操作しますと電気ショックを受けますからご注意ください。（ただし人体には害はありません）

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、直ちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

現象／原因	器具せんつまみから手を離すと消火する	点火しない・点火しにくい	火移りしにくい	黄炎で燃える	炎が安定しない	異常な音をたてて燃える	使用中に消火する	ガスまたはいやなにおいがする	処置方法	参照ページ
ガス元せんの開け忘れ		○							ガス元せんを開ける（全開にする）	—
ガス元せんの開きが不十分			○				○			
ゴム管の接続が不完全		○						○	ゴム管を確実に接続する	11
ゴム管内に空気が残っている		○			○		○		点火操作を繰り返す	12
ゴム管の折れ曲り・つぶれ		○					○		ゴム管の折れ・曲りを直す	11
ゴム管のひび割れ・穴あき								○	ゴム管を交換・先を切りつめる	11
バーナーの炎口づまり	○	○	○	○			○		バーナーの手入れをする	16
バーナートップの浮き		○	○	○	○	○		○	バーナートップを正しくセットする	9
ノズルづまり		○	○						点検・修理を依頼する	—
点火装置の故障		○						○	〃	—
器具せんの故障	○	○						○	〃	—
点火装置の電極部の汚れ		○							〃	—
器具の銘板と使用ガスの不一致	○	○	○	○	○	○	○	○	〃	3
煮こぼれ消火センサーの故障	○						○		〃	—
煮こぼれ消火センサーが作動	○								「使用方法（点火）参照」の上正しく操作する	12
点火操作が適切でない		○							〃	12

アフターサービスのお申し込み

サービスのお申し込み

- 17ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見て、もう一度ご確認下さい。
- 確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないでお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。
  ①品　名……（テーブルコンロ）
  ②品　番……左側面に貼付してあります。

（例）

(4) 10-263 (U)
大阪ガス株式会社 03

  ③現　象……（できるだけ詳しく）
  ④道　順……（できるだけ詳しく）

転居される場合

- ガスには都市ガス14種類およびＬＰガスの区分があります。
  ガスの種類が異なる地域へ転居される場合は、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認のうえ、お買い求めの販売店またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。
  この場合調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証書について

- **この器具には保証書がついています。**
  このテーブルコンロは保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
  保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

特　　長

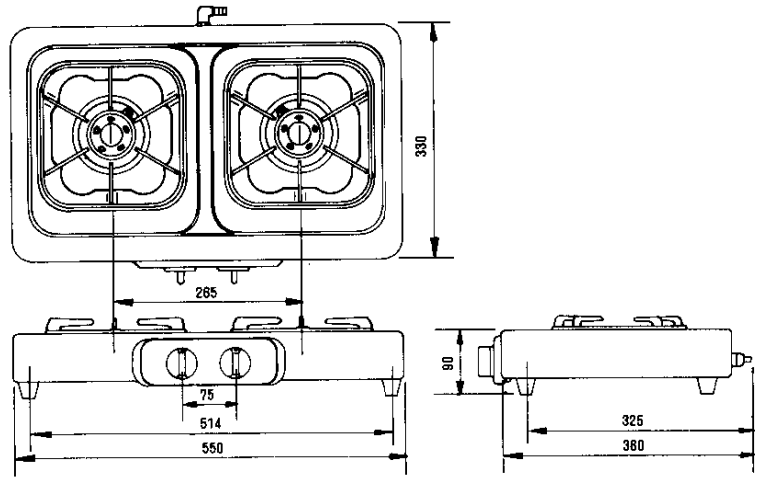
1 煮こぼれ消火センサー付ですので万一ゴム管を折ったり、風によって炎が消えてもガスの放出を最少限に防ぎます。

2 器体とトッププレートが一体構成になっておりますので、取扱いが簡単です。

3 器体およびしる受けはお手入れが容易で、しかもいつまでもきれいなカラーホーロー仕上げです。

4 設置のスペースの狭いところに適したコンパクトサイズです。

寸法図と仕様一覧表

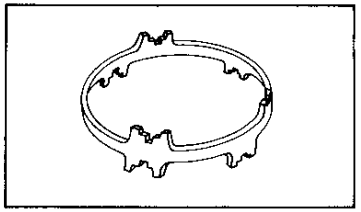


器種名	ニロコンロ			
品名	10-263(U)			
点火方式	圧電点火方式			
外形寸法	高さ90mm(トッププレートまで)×巾550mm×奥行360mm			
重量(器具)	6 kg	安全装置	煮こぼれ消火センサー	

使用ガス / 使用ガスグループ		1時間当りのガス消費量		ガス接続
		個別ガス消費量	全点火時ガス消費量	
都市ガス用	6 C (kcal/h)	2,300	4,300(1.02m³/h)	φ9.5mm ガス用ゴム管
	13 A (kcal/h)	2,400	4,700(0.45m³/h)	
	6 A (kcal/h)	2,300	4,400(0.66m³/h)	
LPガス用(kg/h)		0.19	0.37	

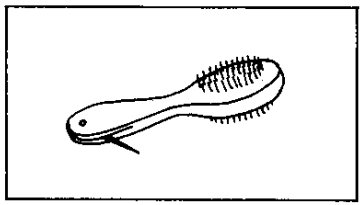
別売部品のご紹介

次の様な別売部品を用意しています。大阪ガス支社、サービスステーション、サービスショップでお求めください。



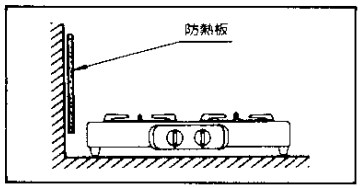
●中華鍋用補助ごとく(4)15-100-0058

・中華鍋等底の丸い鍋を安定よく使っていただけます。



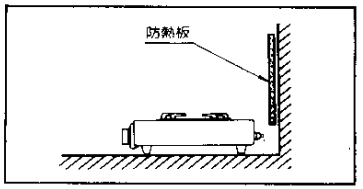
●掃除ブラシ(4)94-100

・バーナーが目づまりしたときに掃除していただくと安定した燃焼が得られ、効率よく安心して使っていただけます。



●防熱板(コードNo:15-100-0084~6)

・設置場所で、可燃性の壁(ステンレス板等を張りつけた可燃性の壁も含む)から15cm以上離して設置できない場合図のように取り付けて使用してください。



お ね が い

ガスくさいときはお部屋の元せんを閉め、窓を全開にしてから(火気に注意して)大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください